



紀見北8区の助け合い・支え合い

「君来たひろば」 だより

第1号

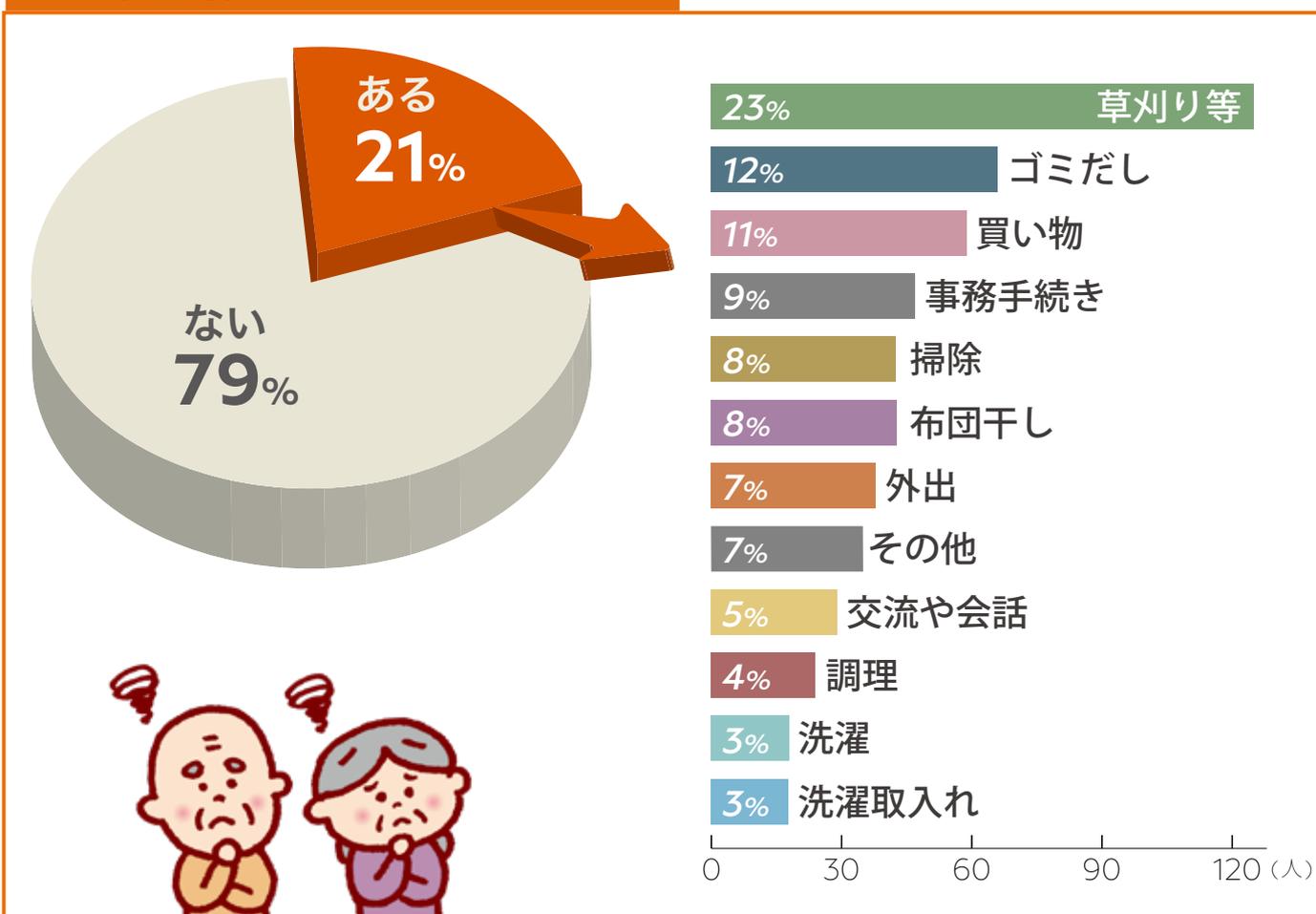
アンケート結果

アンケートにご協力ありがとうございました

2018年6月、紀見北8地区(紀見峠・沓掛・柱本・慶賀野・矢倉脇・紀見ヶ丘・光陽台・三石台)が一緒になって、地域で助け合い・支え合う仕組みづくりをはじめたため「君来たひろば」(第2層生活支援協議体)が発足しました。

2019年12月には、今後どんなことに取り組めるかについて紀見北地区の約3,700世帯にアンケートを実施し、1,040世帯から回答がありました。今回の便りではアンケート結果の一部を紹介させていただきます。

日常生活で困っていることは？



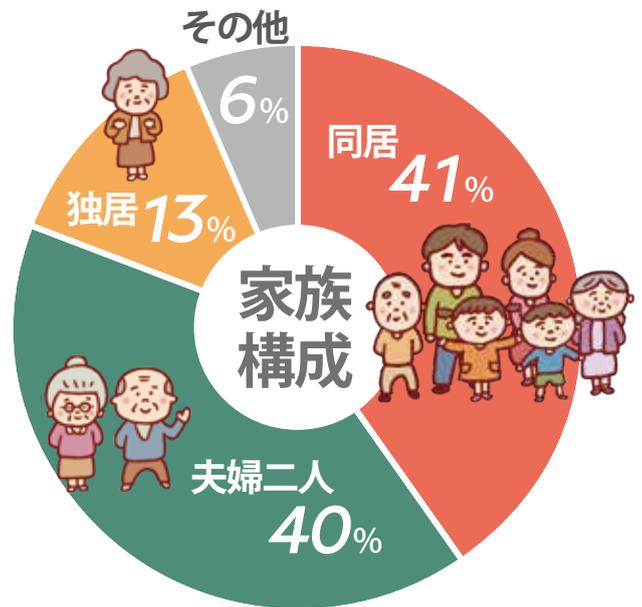
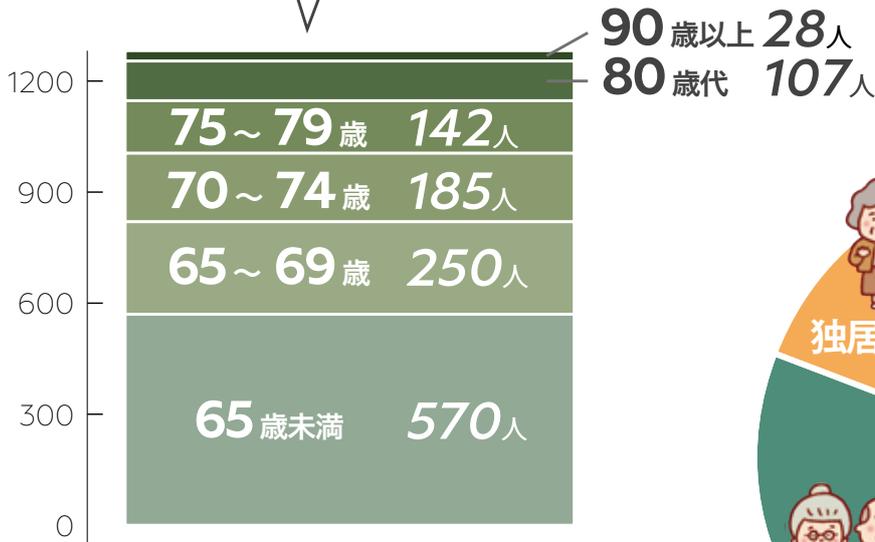
日常生活に困りごとがあると回答された方は21% (215人)、また助け合い・支え合い活動に協力するとお名前を書いていた方は33名いらっしゃいました。ありがとうございます。今後は具体的にまずは出来るところから、

助け合い・支え合いの活動を進め、住みよい紀見北地区を創っていきたいと思いますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

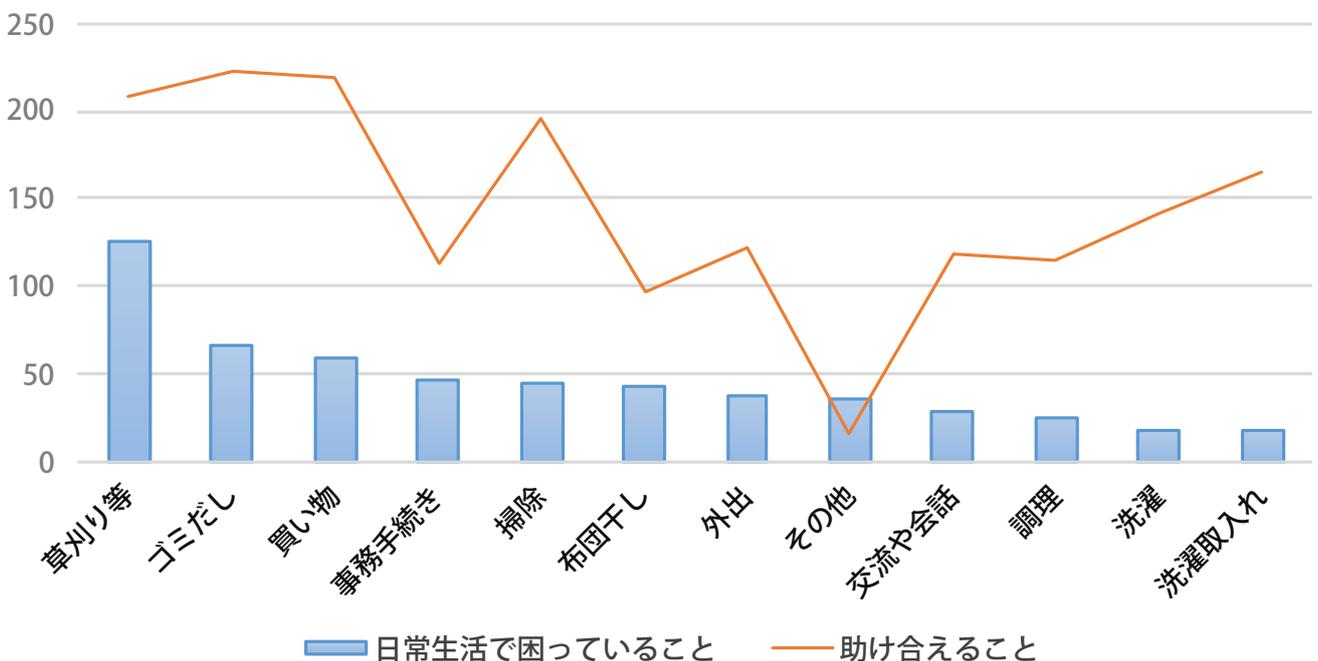
アンケート回答者



紀見北地区の回答者 1040 世帯中
65歳以上 1282人



日常生活で助け合えること



助け合いの組織をつくっていくことや、あなたの思うこと欄の 主なご意見と「君来たひろば」からのコメント

ご意見

1

マニュアルを作り多くの人に 組織に参加してもらう

自分一人では何をどういう風にすればよいかよくわからないが、組織を作って項目ごとにマニュアル等を作成してくれると自分でもやれそうなことが見つかり徐々に人が集まってくるのではないかな。

今後の組織づくりの大切さを強く感じています。多くの方に安心してご協力いただけるような組織づくりを検討していきたいと思います。

ご意見

2

移動の心配

今は車の運転ができますが、近い将来、できなくなった時の買い物・病院行きなどが心配です。足腰も弱くなってくるとし長く歩くことも不安です。



少なからず、同じような不安をお持ちの方がおられます。移動支援の必要性は今後、ますます必要になってくると思います。一人ひとりが介護予防に努めるとともに移動支援のシステムを整備できるよう話し合っていきたいと思います。

ご意見

3

新興住宅では参加が難しいが 出来ることはある

新興住宅地での助け合いの組織というのは難しいと感じる。しかし、高齢化社会になっていく中で見守りや日常の声掛け、パトロール等については、組織化して取り組むことは可能と考える。勤めが終わってからだが元気であればそういう組織に参加して少しでもお役に立ちたいと思う。



見守りや声かけ、パトロールなど、日々の生活の中で多くの方が実践していただくことが、よりよい地域コミュニティづくりに活かされてくると思います。様々な方が参加できる仕組みを作っていければと思います。

日常の暮らしの中で見守りあうことはご近所同士が負担なくできることかもしれません。反面、プライバシーへの配慮が必要です。民生委員・児童委員の方とも連携をはかり、活動の輪を広げていければと思います。



のぞかれていると思う人も 民生委員の訪問でいいのでは

近所で見守り合う事がいいと思うが、のぞかれていると思う人もいる(見てなくてものぞいていると思ひ込む人もいる)。民生委員さんの「おかわりありませんか?」の訪問などいかがでしょうか?

ご意見

4



ご意見
5

定期的に皆で食事作り 栄養とコミュニケーション

まだ、若いので実感はありませんが老人人口が増えていくにつれ自分も含め食事を規則正しくとるのが難しくなるのと、他人との関りがなくなっていくことへの心配はあります。定期的に皆で食事を作って食べる活動があれば良いかと思います。みんなで作業し、その作業の中でうちとけていけると思いますし、栄養もとれるので…ただ男性でも参

加しやすいようマニュアルの充実は必要かと思います。これはサロンや会食の会でされているのかもしれませんが…



公民館やふれあいサロンなどで会食や交流活動をされている場は増えてきています。「みんなで食べる」ことの効果は大きく、異年齢の方々が気楽に集えて、楽しい時間を過ごせる場があるといいと思います。今は新型コロナウイルス感染症の影響があり、具体的な提案は難しいですが、時期がきたら実現できるように考えていきたいと思っています。

助け合いの組織を作っていくためにはトラブル等をさけるためにルール化は必要ですね。できる範囲で無理のない助け合いが必要だと思いますので「助け上手、助けられ上手」になって気軽に助け合い活動ができる地域を目指したいですね。

ご意見
6

助け合い組織は大事 気軽に手伝ってもらえる関係を

助け合いの組織を作っていくことはとても大切だと思います。問4の困りごとを助けあえるのは、お互いに良いことだと思いますが、トラブル等を避けるために、一人でできることも二人以上で手伝うとか記録をする等、気軽に手伝ってもらいやすいようできたらいいと思います。

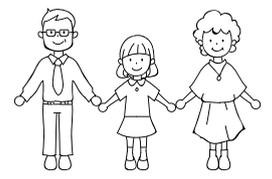


ご意見
7

どんな方にどんな手助けが必要かがわかると良い

まずは発足にあたり、皆様ご多忙の中ありがとうございます。読ませていただきましたが、まだその趣旨・目的が明確には理解できませんでした。2層ということから見ても、橋本市の下部組織なのか地域として独自の組織なのか。有償・無償ボランティア・「責任」…介護保険利用のヘルパーとは違う立場で助け合うといっても色々な線引きは難しそうに感じます。近所の顔見知り同士が「私やりますよ」と声かけて手助けするのはと違った難しさもあるでしょう。体制や決まり事など組織作りにおいてきちんとした流れが出来るまで大変かと思います。介護1.2の人達も大変な状況だと思います。ボランティアの手の出せるには荷が重かったり、支援の方、支援も受けていない方、どういう方へのどういう手助けを目的としているのかがはっきりと分かるともっと良いと思います。

貴重なご意見ありがとうございます。会員の皆さまと話し合いながら、組織作りを深めて行きたいと、考えています。





ご意見

8

人に親切にがモットー その人の立場にたってあげる

私は、できるだけ、人には親切にをモットーにしています。些細な事ですが歩いている人には、積極的に、車に乗ってもらう様にしています。どこまで入っていけるかむずかしい事ですが（プライベートのこともあるし）、その人の立場にたってあげることが一番だと思えます。いずれ私も年をとっていくのですから。

積極的な行動、気配りに感謝致します。相手の気持ちを尊重した行動が多くの方に広がれば、すばらしい地域づくりにつながると思えます。

ご意見

9

介護が必要になったとき十分なサービスが受けられるのか心配

子供達が皆独立し夫婦だけで暮らしています。今は二人とも健康で仕事やボランティアをしています。どちらかが介護が必要になったとき十分なサービスが受けられるか心配です。地域の中で気軽に声をかけて助けてもらえる組織があればうれしいです。でも強い干渉を受けたり、秘密を外に持ち出されることがあるのではと心配です。どうすれば、助ける方も助けてもらう方も気持ちよい組織になるのかいろいろ検討していただけるとありがたいです。よろしくお願いします。

みんなで知恵を出し合い、より良い組織を作っていきたいと考えております。また、個人情報や守秘義務に注意しながら考えていきたいと思えます。



ご意見

10

共助は必要 助け合える組織があると心強い

今、防災を含め自助、共助が必要である。特に必要は共助。コミュニケーションの大切さを重要としてつながりを活かして行く。高齢化に伴い助け合いの組織をつくって行く事は必要ではあると思えますが、プライベートまで必要以上にかかわっていいのか？という点では、まだ難しいと思えます。地域の内で困っていること、人がいたら助けになれたらと思えます。ただ仕事をし、子育てもしているのでできるか不安です。地域で呼びかけをして下さったら、力になれることもあると思えます。今後助け合いの組織があると心強いです。つくってもらいたいです。

最も現役でお忙しい世代だと思えますが、無理のない範囲で、お手伝い頂けたらありがたいです。



ご意見

11

昔ほどお付き合いがないので 地域の取り組みが大切

隣人との会話も少なく、昔ほどお付き合いのない地域に助け合いの組織を作っていく取り組みが大切だと思えます。自分の住んでいる地域が生き生きとした活動を目指して！特に、お一人様になったら、色々参加したいと思ってますが…

誰でも気軽にお声掛け頂ける組織作りを目指して行きたいと思っております。これからは、共助が一番大事だと思えますので、ご協力をお願いします。

ご意見

12

和歌山市のたすけあいの会に 所属しております

今年の4月迄わかやま市民生協の「たすけあいの会」に13年間所属しております。体の不自由な方の庭の草ひき、掃除又認知症の方のお話相手や食事の見守り、そして介助又病院への付き添い等々をしてまいりました。ヘルパーの資格はありません。お困りの方がおられましたらまだ自動車は乗れますので少々遠くてもお手伝いできると思います。



永い間、ご苦労様でした。色々な必要とする方へ寄り添い活動されて来たのですね。困っている人への思いやりが無ければ出来ないと思います。君来たひろばも、一步一步組織作りを、進めて行きたいと考えています。



圧迫感等、強く感じられる協議体ではなく、逆に困ったこと等気軽に話し合える場を目指しています。

拘束感、義務感、干渉などの 圧迫感があるのではという不安

とても良い事と思う反面、組織としての影響力が強く感じられる様になる不具合もあるのではという不安もある（拘束感、義務感、干渉による圧迫感など）。原則として自分（や家族）は、本人の責任で生活できる様に予め努力が必要だと思えます。基本的にはその事に重きをおき、物事を考えたい。

ご意見

13

ご意見

14

義母の介護で民生委員の方にお話を 聞いていただいて心が楽になりました

約10年前から、5年間義母の介護をしておりました。足が悪かったため、地域活動や趣味の会には参加していませんでした。介護保険でデイサービスを利用したり、訪問で生活支援を受けて本当に助かりました。民生委員の方々に、お話を聞いていただけたこと、心が楽になったことを忘れません。



今後も地域の方々、民生委員さん等へ相談することにより、また新しい制度、活用できる事項を見つけて下さい。

現状では無理というのは、十二分に理解できます。今後ご近所さん、地域のみなさまと接触する機会を増やして、活動の糧にしてもらえればと思います。

まだ地域の活動に参加できていないが ご近所さんとはコンタクトをとっている

子供がまだ小さいので、積極的に地域の活動に参加できない現状ですが、前後両隣のご近所さんとは、できるだけコンタクトを取るように心掛けています。（“もしも”の時に、何か手助けができるような、気心の知れた間柄になれば良いと思っています）。例えば、ご高齢になり、免許を返上する等、自家用車で移動が出来なくなったご近所さんがいらっしゃったら、お買い物や通院などに車を出すなど、助け合いも可能かと考えています。緊急時には助けを求められるとすぐに動けるようにしたいです。

ご意見

15

高齢化が進み、 助け合いの組織作りは不可欠

入居した頃に比べ、昨今は住民の高齢化が進んでいるだけに、助け合いの組織作りは不可欠だと思う。場所によるだろうが、私の住む地域はご近所の交流が少なく、助け合い精神は稀薄のように感じる。日常の挨拶すらしない人達もいるなど。私は現在も仕事（常勤）を持っており、なかなかこうした

活動に参加できないのは残念だが、妻は近所の体操教室に通ったりして多少の交流はしている。私も機会があれば、できる範囲で地域の交流に参加したいと思っている。



市やシルバー人材センターへのご意見、貴重なご意見としてお伝えさせていただきます。私たち協議体では自分たちができることを話し合い取り組んでいきたいと思っています。地域の「移動サービス」についても、保険等色々な問題をクリアしながら、また、意見を聞き勉強しながら、他地区の取り組みを検証しながら取り組んでいかなければならないと思っています。



乗り合いタクシー、移動販売車 があると便利

坂道がきつくなった人や、足腰が辛い人の為の乗り合いタクシーがあると便利かな？（病院やお買い物等へ自由に行く事が可能な！）いずれ高齢になると運転もままならなく為に必要なになって来る。お買物が不自由な人の為に移動販売車が来てくれるとたすかります。



日常生活で困っている事項として「買い物」「外出」が大きな割合を占めているのが現状です。車での「買い物支援」についても「移動サービス」同様、今後取り組んでいかなければならない事項であると考えています。



誰もが現役時代は、仕事を頑張っておられると思います。現役時代を卒業された後、徐々に地域行事等に参画していただければと思います。待っています。

有償な活動にしては？ 開催日だけ巡回バスの運行も

近所での助け合いは必要と解っていても時代的（多忙・個人情報 etc）に難しいので有償的な活動にしてはと思います。橋本市のシルバー人材センターの活動は？時代に合わせたニーズになっていないのでは？市はセンターをもっとアピールし人材の確保に努めるべきだと思います。健康で有能な生きがいを求めている高齢者は潜在しているのでは？センターと各地区の協議体が連携すれば助け合いの活動も前進するのではと思うのです。橋本市のもうひとつの大きな問題は交通の便です。市では様々なイベントがありますが、日曜日の開催です。私は様々なボランティアをしています、「行きたいけど足が…」という高齢者の声をよく耳にします。開催日だけでも巡回バスを運行できないでしょうか？人とのふれあい様々なボランティアや趣味の会を知る等認知症予防にも役立ち利点は多いと思います。是非お考え下さい。

ご意見

19

まずは自分と家族の健康に 注意を払って生活

今の時代においてとてもよい事だと思います。自分も生活、時間的に余裕がある時には、お手伝いしたいと思いますが、年々年をとってきますと、人のお世話よりも、自分の健康に不安がでるので、まず自分が健康に過ごして、家族も健康であることに注意を払って、生活していくことが優先となってきております。今は、コーラスなどで老人ホームをボランティア訪問しています。知り合いが困っていたら、助けてあげるように心掛けています。

ボランティアは無理をせずに自分のペースで取り組むことが大切だと思います。コーラスでの老人ホームへの訪問、素晴らしいですね。これからも知り合いの方の困りごとの助けなど頑張ってください。できる範囲で「君来たひろばへ」のご協力もお願いします。

三石台区自治会には「みついし Dai 好きプロジェクト」という専門部があり、三石台の魅力の再確認、再発見、他地区への発信のほか、三石台をより良くする活動をされています。みんなで一緒に三石にしかないもの、資源を生かすことについて考えられると良いですね。ご興味がありましたら、ご参加ください。

三石にしかない資源を生かして 老若男女の交流の場ができれば…

ご意見

20

日頃から老若男女が楽しめるアクティブな環境設備を整えてほしいです。やがて、外からのお客さんも来たら交流の場になると思いますし、高齢者の筋力維持・子どもの遊び場になる。それがそのまま防災にもつながると考えます。三石にしかないもの、唯一のもの、今ある資源を生かせたら、より良いと思います。



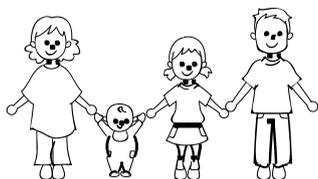
ご意見

21

リタイア後では遅いかもしれないが 自分にできることをしたいと思う

今は、平日は仕事でいないことが多いが、挨拶は心がけている。災害などで困り事はいつ起こるかかわからない。班の人の顔も見ることがないというのは困るので、リタイアしたら…というのは遅いかもしれないが、定年近いので趣味のサークルでも何でも、地域の方と繋がりを持てることを考えて自分に出来ることをしたいと思う。

挨拶の心がけ、ありがとうございます。日頃からご近所付き合いができていることも大切な防災の一つだと思います。紀見北地区公民館には45のサークルがありサークル活動が活発です。一覧表が公民館のホームページに掲載されていますので、一度ご覧になってみてください。



ご近所付き合いがないので今後不安 助け合いの組織ができれば参加したい

現在はパートで働きながら日々なんとか暮らしていますが、職場以外に友人は無くご近所付き合いをしてこなかったため、病気その他で困った時に相談できる人は居ません。これから先、どんどん年を重ねていく毎に困る事が何かと出てくると思うので不安はありますが、自分が誰かを助けるというのも現状難しいので、助け合いの組織ができれば、その中で何か人にできること、助けて頂けることも探していけるのかなと思います。



自分一人だけで誰かを助けたり、また助けを求めるというのもハードルが高い面がありますよね。みんなで助け合う支え合いの地域組織があれば、もっと気軽にできるようになるといい、これからも活動していきたいと思います。

ご近所と顔を合わせる事がなく コミュニケーションがとれない

入居1年半余りが経過しましたが、ご近所の方と顔を合わせることが殆どなく、いざという時の連絡や相談できる人がありません。役所や市内に住んでいる娘を頼りにしており、ご近所で連絡できる組織がぜひ必要と痛感しております。コミュニケーションがとれていない、誰が住んでいるのかわからないということはプライバシーが守られていることとは違います。高齢化の進む今日では助け合いの組織をぜひ造っていただきたいと思っています。

ご意見のとおり、地域の繋がりが
ない＝プライバシーの保護では
ないと感じています。個人の意思
やプライバシーを尊重しつつ、困
りごとを相談、助け合いができる
ような地域組織づくりを目指した
いと思います。

魅力的なイベントを企画することによって、強制ではなく自発的にたくさんの方が地域に出て顔見知りになっていただける機会を設けられればと思っています。個人の意思やプライバシーを尊重し、今の時代に合った助け合いのあり方を私たちも日々、模索しています。

お助け活動に参加して 打ち解けられるか不安

三石台の4丁目に20年近く住んで居り近隣の方とは顔見知りとなった。しかし他の街区の人たちとは公民館主宰のイベント以外に顔を合わせる事は少ない。こんな現在の自分の状況下では、【お助け活動】

に参加してもお互いに打ち解けるかという不安は残る。助け合いの活動は、他家のプライバシーの保護をどう守るかという課題を抱えており、コーディネートされる世話人の方々のご苦勞は大きいと思う。



ご意見

25

公民館内に助け合いコーナー ボランティアが交代で常駐

紀見北公民館内に助け合いコーナーを作りボランティアメンバーが交代で常駐し、困り事の相談や実作業の手助けをする（メンバーは有料でも良いかも）。

橋本名誉市民の岡潔先生は、「生後3年間は、童心の時代と言うが、この時期の教育が一番大事である」と言っておられます。子育ては大変だと思いますが、できる範囲でご協力をお願いします。

君来たひろばのコーディネーターに連絡してもらえれば、依頼者とボランティアメンバーが日時を調節して、相談等に応じられる体制を作りたいと考えています。

困った方への協力はしたい 子供と一緒にできることがあれば

ご意見

26

助け合いの組織の内容を把握しているわけではありませんが、今後高齢者世帯が増えることが目に見えているので何かしらのできる範囲で困った方への協力はしていきたいと考えています。現在0歳児の子供がいる為、名前は書きませんでした。今後協力できることがあればお手伝いしたいです。0歳児の子供と一緒にできることならします。



ご意見

27

このアンケートをいただき 未来に光を見いだした

まだ生活に不便はありませんが年を重ねるごとに心細くなります。このような助け合い、支え合う組織ができ皆さんと少しでも近づき、困ったことも共有でき、笑顔の多い地域になることが望ましいことですが、すぐに参加したいのですが、通院中ですので残念です。このようなアンケートを頂き未来に光をみいだしたような気になりました。ありがとうございます。

健康第一ですので、お体を大切にしてください。お元気になられましたら、「笑顔の絶えない地域づくり」にご協力をお願いします。

「子供たちが小さい頃、近所の方々に助けてもらったので、感謝の気持ちをお返ししたい」とのお話、とても感動しました。子育てに余裕ができましたら、ご協力をお願いします。

近所の方々に助けてもらった 感謝の気持ちをお返ししたい

ご意見

28

素晴らしい取り組みだと思います。子供たちが小さい頃、近所の方々に助けてもらったことがたくさんあります。そんな感謝の気持ちをお返しできたらいいなと思います。今は、仕事に子育てに忙しく時間がありませんが、子供たちが巣立った時には協力したいと思いました。





ご意見

29

役割や仕事量が負担にならないように 翌年にむけて評価してほしい

子供やお年寄りに優しい地区であって欲しいです。このアンケートにあまり関係ないですが、地域の祭りとかその他活動運営は素敵な事と思いますが、お年をとった方への役割や仕事量、負担になってないか心配です。防犯パトロール中に後半、足がついていけない一部の方を見て、40歳代の私達とは体力やかかる負担の違いを感じました。年間行事の一環として行うのは大切と思いますが、それをカバーする人達の様子をみて翌年に向けて評価して欲しいです。



ボランティア活動はできる範囲で無理せず参加できるのが望ましいと思います。「子供やお年寄りに優しい地域」をめざして共に頑張りましょう。

ご意見

30

独居だと困る事も多いだろうと思う 皆が住み良い街になれば

我が家は夫婦と子供の若い世帯ですが、まわりのお家は高齢者もいらっしゃいます。独居だったら困ることも多いだろうなあと思います。お年寄りから子供まで、みなが住みよい街になればいいなあと思うので、お手伝いできることがあれば、お手伝いしたいと思います。

若い世代の方々はそれとなく、近所の高齢者の方の様子を見て頂く（見守りをさせていただく）と助かります。そして、様子が変わりなあと感じた場合には、君来たひろばのコーディネーター等にお知らせ下さい。



日常生活での困りごとのご相談や、助け合い・支え合い活動に協力して下さる方は、生活支援コーディネーターまで

浦 文計 090-5163-7240

大山 善久 090-7109-2233

阪口 豊 090-4492-9953

下坂 博信 090-1678-9059

森脇 稔 090-5244-0486